

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

| | |
|------------|---|
| Title | 森戸国際高等教育学院による独自のオンライン・プレースメントテスト：2022年度の実施状況について |
| Author(s) | 名塩, 征史 |
| Citation | 広島大学留学生教育, 27 : 59 - 63 |
| Issue Date | 2023-09-30 |
| DOI | |
| Self DOI | 10.15027/54872 |
| URL | https://doi.org/10.15027/54872 |
| Right | |
| Relation | |



森戸国際高等教育学院による独自のオンライン・プレースメントテスト： 2022 年度の実施状況について

名塩征史

森戸国際高等教育学院（以下、本学院）では、各留学生の日本語レベルに応じた日本語授業の提供を目的とし、前期・後期の開始前にプレースメントテストを実施している。本報告は、2022 年度に実施された本学院独自のオンライン・プレースメントテスト（以下、OPT）について、事前申請件数、アカウント登録者数、受験者数、実施の際に発生した問題、今後の課題をまとめたものである。なお、報告者は当該試験の実施・運営を取り仕切る立場にあり、試験問題の作成には関わっていないため、ここでは当該試験の実施にかかるオンライン・システムの運用に関連する範囲に報告をとどめる。

◆ 前年度 OPT の実施を通して明らかとなった課題への対処

2021 年度 OPT の実施を通して、次のような 3 つの課題が明らかとなった（前号の報告を参照）。まずは、これらの課題への対処について報告する。

- 1) OPT の結果／点数が記録されないケースについて
- 2) OPT へのアクセスが遮断されるケースについて
- 3) 救済措置の増加について

OPT は市販の試験作成ソフトを用いて作成されたテスト・プログラムを Moodle にアップロードして運用する形式を採用している。そのため、試験を終了する際には、テスト・プログラムによって算出された合計点数を Moodle に送信して記録する手続きが必要になる。1) は、この送信手続きに失敗し、結果が記録されないまま試験終了となってしまふという問題である。送信手続きの失敗には主に 2 つのケースが確認されている。一つは、単に受験者が送信手続きを正しく行わずに、または、手続きを忘れて試験を終了してしまふというケースであり、もう一つは、インターネット接続が不安定であることによりデータ送信が正常に完了しないというケースである。2022 年度ではこうした問題を未然に防ぐために、受験マニュアルや OPT スタートページにおいて結果送信手続きの必要性を強調し、通信状況が安定している場所での受験を促す広報活動を行った。また、早めに来日する受験者には日本国内での受験を推奨し、希望に応じて大学内に場所を用意したり、正常動作が確認されている PC を貸し出したりした。その結果、2022 年度では、前後期ともに受験

者全員の結果／点数を記録することに成功した。

2) は、「OPT (Moodle) サイトにアクセスできない」、「アクセスできるがログイン画面が表示されない」、「テスト・プログラムが動かない」など、そもそも受験を開始できないという問題である。これについても、主な原因はインターネット接続の不具合であり、2022 年度では上述の広報活動によって大部分が解消された。しかし、稀なケースではあるが、接続状況は安定しているにも関わらず、試験問題が一部表示されなかったり、聴解問題の音声が再生されなかったりする不具合も確認された。こうしたケースは 2021 年度の実施時にも発生しており、その際にはやむなく来日後に面接試験を実施することで OPT の受験に代えるという措置が講じられた。しかし、2022 年度では問題が発生してすぐに当該の受験者が受験期間内に来日できたため、日本国内で再受験を行うことにより事なきを得た。このインターネットの接続状況に関係なく起こる動作不良については、2022 年度の OPT 実施後に分析と考察が進められた。これについては本報告の「実施に際して発生した問題」で後述する。

3) は、受験希望者との情報共有に関連する問題である。「救済措置」とは、やむをえない事情により OPT 受験期間内に受験を完了できなかった受験希望者がいた場合に、当該の希望者が所属する(予定の)学部／研究科／プログラムの担当者から依頼を受ける形で、受験期間終了後の受験を認める特別措置のことである。受験期間内に受験を完了できなかった理由は様々で、全てを一様に解決することは難しいが、少なくとも受験希望者への情報提供は不備なく確実に行っていく必要がある。2022 年度では OPT 実施の目的や手順、その重要性等について関係各所への周知を行い協力を求めることで、わずかではあるが、件数を減らすことができた。

◆ 2022 年度 OPT の概要

<日程>

2022 年度 OPT は、前期授業(4月～8月)、および後期授業(10月～2月)の開始に合わせて、表1に記した日程で2回実施された。

昨年度の実施スケジュールを踏襲し、2022 年度でも前後期ともに授業開始日の1週間前には受験者(履修希望者)のレベル判定が全て完了するように日程が組まれ、その後の事前登録申請、および OPT の受験は、原則として認めない方針が採用された。受験期間終了後の受験を認める「救済措置」を検討する余地のある事情(運営側の不手際、通信状況の不具合など)によって期間内に受験が完了しなかった受験希望者については、希望者本人からではなく、希望者が所属する(予定の)学部／研究科／プログラムの担当者から依頼を受ける形で個別に対応した。

表1：2022年度OPT実施日程

| 前期 | 後期 |
|------------------------|------------------------|
| 2/18(金)：実施要領について各部局へ通知 | 8/15(月)：実施要領について各部局へ通知 |
| 3/4(金)：事前登録申請開始 | 8/29(月)：事前登録申請開始 |
| 3/11(金)：OPT受験開始 | 9/5(月)：OPT受験開始 |
| 3/25(金)：事前登録申請終了 | 9/16(金)：事前登録申請終了 |
| 3/30(水)：OPT受験終了 | 9/25(日)：OPT受験終了 |
| 3/31(木)：レベル判定会議 | 9/26(月)：レベル判定会議 |
| 4/1(金)：レベル通知 | 9/27(火)：レベル通知 |
| (4/8(金)：前期授業開始) | (10/3(月)：後期授業開始) |

<事前申請者数、アカウント登録者数、受験者数>

2022年度に実施された2回のOPTについて、各回の事前申請件数を表2に、またアカウント登録者数と受験者数を表3に記す。

表2：2021年度OPTの事前申請件数

| | 前期 | | | 後期 | | |
|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-----|
| | 学習歴あり | 学習歴なし | 合計 | 学習歴あり | 学習歴なし | 合計 |
| 在學生 | 164 | 28 | 192 | 96 | 37 | 133 |
| 新入生 | 91 | 30 | 121 | 194 | 81 | 275 |
| 合計 | 255 | 58 | 313 | 290 | 118 | 408 |

表3：2022年度OPTのアカウント登録者数と受験者数

| | 前期 | 後期 |
|-----------|-----|-----|
| アカウント登録者数 | 257 | 297 |
| 受験者数 | 235 | 278 |
| 未受験者数 | 22 | 19 |

2020年度から続くコロナ禍の影響が徐々に和らぐ中で、2022年度前期からは、本学が開講する授業のほとんどが対面授業へと移行した。しかし、国外に目を向けてみると、引き

続き渡航が制限されている国も多く、海外からの留学生が受講者となる本学院の日本語クラスについては、渡日できない受講者への配慮から、2022 年前期の授業も原則としてオンラインでの実施となった。しかし、受講者数の減少には歯止めがかからず、前期の事前申請件数は 313 名と昨年度前期の人数を下回る結果となり、特に新入生の数が大幅に減少した。一方、後期は各国の渡航制限が解除、もしくは緩和され、本学院でもほとんどのクラスで対面授業が行われることとなった。事前申請件数も回復し、前年度後期とほぼ同数となっている。

また 2022 年度は前年度に比べて、前後期ともに未受験者が減少した。前期の最終的な受験者数は 235 名と昨年度前期とほぼ同数、後期については前年度よりも増加しており、受験率では、2021 年度の前期 86%／後期 82%に対し、2022 年度は前期 91%／後期 93%と数値に改善が見られた。

◆ 実施に際して発生した問題

2022 年度の OPT 実施に際しても、昨年度の OPT で発生した問題（本稿の「前年度 OPT の実施を通して明らかとなった課題への対処」を参照）が引き続き確認されたが、適切な対処によって概ね解決し、受験者を恙無くクラス履修へと導く上で支障をきたすような事態には至らなかった。これらの問題については、回を重ねるごとに減少し自ずと解消されるだろう。一方で、早急に改善すべきと思われる問題が浮上し、この問題の解決に向けた動きが、翌年度以降の実施形式に大きな変化をもたらすものと予想される。以下ではこの問題とその解決に向けた今後の動向について報告する。

< 1. 安定した通信状況下における OPT の動作不良 >

2021 年度にも既に確認されていたが、安定した通信状況下においても OPT にアクセスできない、もしくは、OPT の一部機能が正常に動作しないといった問題が 2022 年度においても少なからず確認された。特に 2022 年度後期には、日本国内での受験に際しても同様の問題が発生し、いよいよその原因が OPT システムそのものの不備に関連している可能性が高まった。当該の問題についてさらに調査してみると、次のような症状が明らかとなった。すなわち、最終結果／点数をテスト・プログラムから Moodle へと送信する最後の手続きにおいて、受験者側には「送信が完了しました」というメッセージが表示され、かつ終了直後には画面上で点数が確認できていたにも関わらず、管理者側の画面にはその点数が「0」と表示され、受験者側でも一旦ログアウトしてしまうと点数が「0」になってしまうというものである。これが安定した通信状況下でも発生していたことから、その原因として、アップロードされたテスト・プログラムと Moodle との間で起こるデータ送受信の不具合が疑われた。また、2021 年度の OPT 作成時からすでに、使用していたテスト作成

ソフトが開発メーカーからのサポートを受けられなくなっていた。メーカーからは後継ソフトへの移行を推奨されていたが、その後継ソフトにはルビ／ふりがな機能が搭載されておらず、留学生を対象とする OPT の作成には向いていないと判断し、やむなく古いバージョンを使用し続けていた。その一方で、Moodle は定期的にバージョンアップが行われていたため、こうした経緯からも、テスト・プログラムと Moodle との互換性に問題が生じているのではないかとの疑いが強まった。

<2. 問題の解消に向けたテスト形式の変更>

アップロードされたテスト・プログラムと Moodle との互換性の問題を解決するに当たっては、Moodle に標準搭載されている小テスト機能を使って OPT を作成するのが最善の策であるように思われる。この場合、時間制限や問題の構成に大きな変更を余儀なくされるが、動作不良の発生への対応にかかる手間を削減できるため、運用面には重要な改善をもたらすことが期待される。その他にも、Moodle の機能を利用することによって、聴解音声の自動再生が可能となり、また試験結果に関するより詳細なデータの収集も可能となるなどのメリットもある。OPT の実施が 2022 年度後期で 5 回目となり、問題の質や量についても見直しの必要性が指摘されていたタイミングでもあったため、2023 年度の実施に向けて、上記のようにテスト形式を大きく変更する方向で適宜検討が進められることとなった。

本報告書の作成時にはすでに新たな OPT の運用が始まっているが、これに関する報告は次号に譲ることとしたい。